

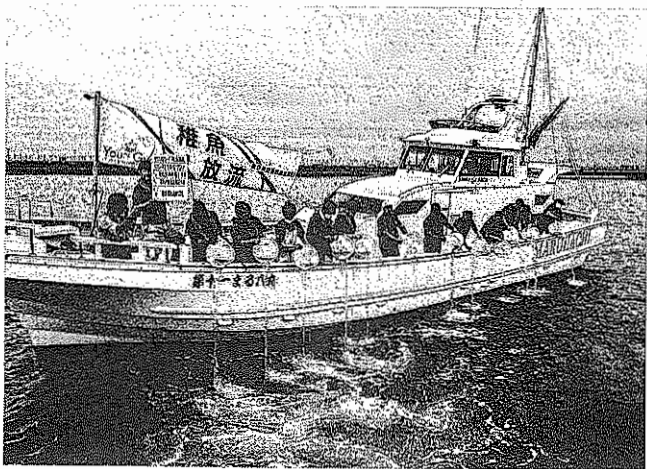
マコガレイ稚魚1万尾

遊漁船業組合が羽田沖に

長は3〜6cm。1月に孵化したものが、今年は

東京湾遊漁船業協同組合（飯島正宏理事長）は6月14日（水）、東京湾奥の羽田沖浅場にマコガレイの稚魚1万尾を放流した。同組合は、2017年4月に初めてカレイの稚魚1万尾を羽田沖に放流。以来毎年放流事業の一環として実施しており、今回が6回目。

この日、大田区大森の船宿「まる八」桟橋にトラックで運ばれてきたカレイの稚魚は山口県で生産された種苗。（公財）神奈川県栽培漁業協会を通じて入手したもので、体



放流を行う東京湾遊漁船業協同組合関係者

例年より約1カ月早い放流となったため、平均4・3cmと型もやや小型が中心だった。

カレイの稚魚は、桟橋で同組合員によって放流船のバケツに移され、午前8時過ぎ、羽田沖浅場に運ばれ一斉に放流が行われた。

◆「江戸前の釣り」復活を目指して

東京湾のマコガレイ

状況だ。

は、江戸前のカレイとして古くから人気があり、冬場のカレイ釣りは、風物詩でもあったが、釣りが次々に埋め立てられ、産卵場所も少なくなり、近年絶対数が激減。

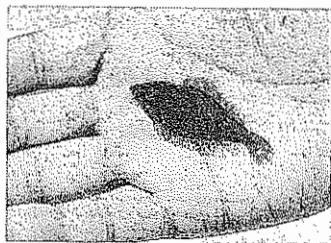
「マコガレイは、東京湾で激減した魚種の代表格。組合としては、今後も種苗が手に入れば、毎年放流を続けていきたい」（飯島理事長）としている。

10年ほど前から、乗合船の出船もほとんどなくなってしまう。

放流したカレイの成長はゆっくりで、20cmを超えるまで3年ほどかかる。同組合による最初の

同組合ではカレイに限らず、ハゼ、シロギス、アナゴなど江戸前の釣りの復活を目指して長年活動を行ってきたおり、そうした魚種の放流も課題となっている。江戸前を代表する魚種のなかで種苗が入手できるのは今のところカレイだけで、その

放流から6年が経過しており、そろそろ釣りに育ったカレイもいるはずなのだが…。



マコガレイ稚魚は体長3〜6cmと例年よりやや小型

のカレイの種苗確保についても毎年苦労している